

(50Hz/60Hz) ジェットヒーター 【トーマス君】 取扱説明書



目次

- メーカー取扱説明書
- 梱包方法

ストーブヒーター暖房器具レンタル専門店

笑顔のボタンタッチ
上州物産株式会社

〒379-2166

群馬県前橋市野中町369-2

TEL：027-289-6080

FAX：027-289-6166

緊急連絡先：080-5643-7181

ストーブヒーター暖房器具レンタル専門店ホームページへアクセスする場合はこちらのQRコードを読み込んでください。



取扱説明書

業務用油だき可搬形ヒータ・熱風式間接形

オリオンジェットヒーター HS

HS290-L



この機械は物の加温、乾燥を目的とした「業務用」ヒータです。
家庭用として使わないでください。
火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。
この取扱説明書をよく読んでヒータを正しくお使いください。
取扱説明書は必ず保管しておいてください。



ガソリン厳禁



巻末が保証書となっています。
大切に保管してください。

03103876010

お買い上げありがとうございます

このたびは、オリオン製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
この取扱説明書には使用上の注意事項を記載しております。
より安全に、また良好な状態でお使いいただくためにご使用前に必ずお読みください。

安全上のご注意

ご使用前に「安全のため必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、 **危険**  **警告**  **注意**に区分して表示してあります。



危険

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡や重症を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定されるもの




警告

取り扱いを誤った場合、使用者が死亡や重症を負う可能性、または火災の可能性が想定されるもの










注意

取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定されるもの

また、 **注意**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- ・取扱説明書をお読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。
- ・お使いになっている製品を譲渡されたり、貸与されるときには、新しく使用者となられる方が安全な正しい使い方を知るために、この取扱説明書を製品本体の目立つところに添付してください。

図記号について

	 記号は、危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合はやけどに注意）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は改造禁止）が描かれているものは、その行為を表します。
	 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれているものは、その行為を表します。
重要事項	 記号は、警告・注意以外の重要な事項を示します。

機構及び仕様等は予告なく変更する場合があります。
その際には、本書の内容と一部異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

も く じ




安全のため必ずお守りください（設置上の注意）	3
安全のため必ずお守りください（使用上の注意）	6
本体警告ラベル貼付位置	12
各部のなまえ	13
使用前の準備と確認	14
使い方	20
点検・手入れのしかた	23
定期点検	26
異常のとき	27
保管のしかた	28
消耗部品	29
廃棄について	29
オプション部品	30
アフターサービス	31
仕様	32

安全のため必ずお守りください


設置上の注意（危険 / 警告）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を設置する前にお読みになり、必ずお守りください。

危険

	<p>排気ガスは必ず屋外へ排出 排気ガスは煙突を設置し、必ず屋外へ排出してください。一酸化炭素などが発生し、死亡事故につながり危険です。</p> <p>空気取入口を必ず設ける 新鮮な燃焼空気が常に補給できるように、空気取入口を必ず設けてください。酸素不足により、死亡事故につながり危険です。</p>
	<p>可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使用しているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に設置しないでください。爆発、火災の原因になります。</p>
	<p>改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。</p>

警告

	<p>水のかかるところ、湿気の多いところへの設置禁止 本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところには設置しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。 設置に適さない場所 例：プール施設等の高湿環境下</p> <p>車両への据え付け禁止 車両へ据え付けしないでください。故障や火災の原因になります。</p>
---	---

安全のため必ずお守りください

設置上の注意（注意）

注意



振動の激しいところや水平でないところでの設置禁止

振動がなく水平な場所に設置してください。振動が激しい場所や水平でない場所に設置すると、ヒータが移動したり転倒したりして、火災の原因になります。

ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

通路や子供のいる場所での設置に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などには設置しないでください。人がぶつかり、やけどなどの事故の原因になります。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。可燃物が熱風吹出口付近に飛来すると、火災の原因になります。また、飛来物が空気取入口に貼り付くと、異常燃焼の原因になります。

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所には設置しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により火災等の事故のおそれがあります。

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところには設置しないでください。製品の故障や漏電による、感電、火災の原因になります。



油タンクはヒータから 2m 以上離す

油タンクはヒータから 2m 以上離して設置してください。油タンクが暖められ、引火して火災の原因になります。

油タンクの油面の高さは 2m 以下にする

油タンクの油面の高さは電磁ポンプから 2m 以下にしてください。火災の原因になります。

油タンクは平らな場所に設置

油タンクは丈夫で平らなところに、水平になるように設置し、転倒防止の処置をしてください。また、油タンクの設置については、油タンクの容量により基準が定められているため、現地消防機関にご相談ください。設置に不備があると火災の原因になります。

油漏れを確認する

油配管および継手部分の油漏れを確認してください。火災の原因になります。

壁・天井等の煙突貫通部は断熱する

壁及び天井等の煙突貫通部は、不燃材料のめがね石を設けてください。火災の原因になります。

安全のため必ずお守りください

設置上の注意（注意）

注意



煙突は確実に固定する

煙突が風等でぐらつかないようにし、確実に固定してください。煙突が倒れてケガ、火災の原因になります。

煙突の横引き・曲がりは少なくする

煙突の横引き部分と曲がりは抵抗になるので、横引き部分はできるだけ短く、曲がりは少なくしてください。空気不足により、異常燃焼や火災の原因になります。

動物飼育施設での設置に注意

下記内容が想定されますので、特に注意して設置してください。





- ・敷きワラ、オガ粉等の可燃物は火災のおそがありますので、特に注意して設置してください。
- ・新鮮な燃焼空気が常に補給できるように、空気取入口を必ず設けてください。換気が不十分になると、酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡するおそがあります。
- ・家畜がヒータに近づきすぎないように、柵などの施設を設置してください。家畜がヒータを倒したり、壊す等して火災の原因になります。また、家畜が長時間温風にあたり、低温やけどや脱水症状になるおそがあります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（危険）

この章に記載する事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するための安全上の重要事項です。この製品を使用する前にお読みになり、必ずお守りください。




危険

	<p>ガソリン厳禁 灯油（JIS1号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。</p>
	<p>可燃性ガス及び引火性液体厳禁 可燃性ガスを発生するもの（シンナー、ガソリン、LPG など）を使用しているところや置いてあるところでは、ヒータを絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。</p> <p>段積燃焼厳禁 段積みした状態では絶対に使用しないでください。爆発、火災、やけど等の原因になり危険です。</p>
	<p>換気必要 使用中は1時間に1~2回必ず換気してください。換気せずに使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。</p> <p>密閉された空間での使用厳禁 換気が十分行なわれない場所で使用し続けると、酸素不足により不完全燃焼し、一酸化炭素中毒による死亡事故につながり危険です。新鮮な空気が常に供給できるように、空気取入口や排気口を必ず設けてください。</p>
	<p>改造厳禁 改造は絶対にしないでください。製品故障の原因になるばかりでなく、火災・やけど・不完全燃焼による中毒など、重大な事故の原因になります。</p>

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（警告）

警告

	<p>変質灯油、不純灯油使用厳禁 変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。</p> <p>スプレー缶厳禁 スプレー缶など密閉容器を暖めたり、熱風の当たるところに放置しないでください。熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し危険です。</p> <p>可燃性粉塵厳禁 可燃性粉塵（木くず、紙くず、繊維くず、鉄粉など）が発生するところでは使用しないでください。ヒータに吸い込まれると、加熱され火の粉になって噴き出されるので、火災の原因になります。</p> <p>水のかかるところ、湿気の多いところでの使用禁止 本製品は屋内仕様です。雨水、雪などのかかるところ及び湿気の多いところでは使用しないでください。また、濡れた手で操作しないでください。故障や感電の原因になります。 ご使用に適さない場所 例：プール施設等の高湿度環境下での使用</p> <p>空気取入口及び熱風吹出口をふさがない 空気取入口や熱風吹出口をふさがないでください。また、周囲のシート等が空気取入口に貼り付かないように注意してください。異常燃焼や火災の原因になります。</p> <p>電源コードを破損させたり加工しない 電源コードに重いものを載せたり、加熱したり、引っばったり、はさみ込んだり又は加工しないでください。電源コードが破損し、感電や火災などの原因になります。</p> <p>車両に積載したままでの使用禁止 車両に積載したまま使用しないでください。火災の原因になります。</p>
	<p>回転物に注意 運転中、内部の送風ファン、燃焼ファンは高速で回転しています。運転中には点検蓋を絶対に開けないでください。燃焼ファンに触れるとケガの原因になります。</p>
	<p>保護網の変形、破損を確認する 空気取入口の保護網が変形、破損した場合は、ただちに使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。破損した保護網に触れるとケガの原因になります。</p>

安全のため必ずお守りください

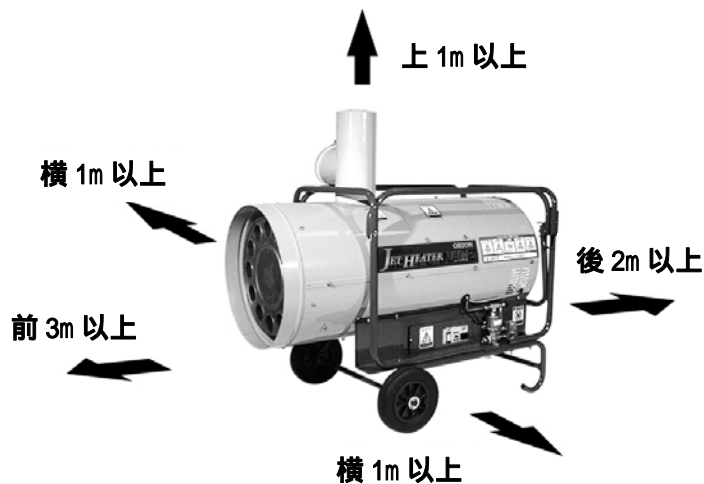
使用上の注意（警告）

警告



周囲の可燃物に注意

ヒータ周囲の天井、壁面等の可燃物との距離は、下図の距離を確保してください。火災の原因になります。



正常燃焼の確認

使用するたびに正常に燃焼していることを確認してください。（23 ページ「点検・手入れのしかた」参照）黒煙の発生など異常を確認したときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒータ本体の焼損や火災の原因になります。



点検、手入れ時、電源プラグを抜く

点検、手入れ時及びオプション部品の取付の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）

注意



振動の激しいところや水平でないところでの使用禁止

振動がなく水平な場所で使用してください。振動が激しい場所や水平でない場所で使用すると、ヒータが移動したり転倒したりして、**火災の原因になります。**

通路や子供のいる場所での使用に注意

階段、避難口及び部屋の出入口などでは使用しないでください。人がぶつかり、**やけどなどの事故の原因になります。**また、子供のいる場所では、ガードを設置したり管理者をおくなどして、特に安全管理に注意してください。

風に注意

風の強い場所では使用しないでください。可燃物が熱風吹出口付近に飛来すると、**火災の原因になります。**また、飛来物が空気取入口に貼り付くと、**異常燃焼の原因になります。**

磁気や高周波に注意

磁気や高周波の強い場所では使用しないでください。予期せぬ製品の誤動作等により**火災等の事故のおそれがあります。**

腐食性ガスに注意

腐食性ガスの発生するところでは使用しないでください。製品の故障や漏電による**感電、火災の原因になります。**

点火操作の繰り返し禁止

燃料切れ以外で、点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、煙突より黒煙が出ることがあります。また、**火災の原因になります。**お買い求めの販売店にご相談ください。

電源プラグでの消火禁止

電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。ヒータ内部が過熱し、**火災、やけどや故障の原因になります。**

燃焼中の移動禁止

燃焼中は移動しないでください。**やけどや転倒による火災の原因になります。**

点火操作後の熱風吹出口接近禁止

点火操作後、熱風吹出口をのぞき込まないでください。**やけどのおそれがあります。**

標高の高いところでの使用禁止

標高 1000m 以下で使用してください。1000m を超える場所で使用すると、燃焼空気量不足により**異常燃焼の原因になります。**



やけどに注意

燃焼中や消火直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などは高温になっています。燃焼中及び消火後 30 分間は手を触れないでください。**やけどのおそれがあります。**

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）

注意



電源に注意

電源電圧はAC100±10Vの範囲内で使用し、AC200V電源には絶対に接続しないでください。制御基板が故障します。また、タコ足配線はしないでください。**故障や感電、火災の原因になります。**

動物飼育施設での使用に注意

下記内容が想定されますので、特に注意して使用してください。

- ・敷きワラ、オガ粉等の可燃物は**火災のおそれ**がありますので、特に注意してください。
- ・換気が不十分になると**酸欠や一酸化炭素中毒により家畜が死亡**するおそれがありますので、使用中は1時間に1~2回換気をしてください。
- ・安全装置の作動などによりヒータが自動消火し**家畜が凍死**する場合も想定されますので、使用中は定期的に運転状態を確認してください。

周囲温度に注意

周囲温度は-20~40 の範囲で使用してください。40 を超える温度での使用はヒータが過熱され、**火災の原因になります。**

給油時消火

必ず消火してから給油してください。**火災の原因になります。**

運転スイッチの切り忘れに注意

サーモスタットまたはタイマを取り付けて運転すると、自動的に点火・消火を繰り返します。（サーモスタット、タイマはオプション）ヒータを使用しない時は、必ず運転スイッチを「切」にして電源プラグをコンセントから抜いてください。**火災の原因になります。**

手の挟み込み注意

ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、**ケガの原因になります。**

点検時は保護手袋着用

ヒータの清掃や点検の際は、**ケガの防止のため**、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

保管時の段積みは3段まで

保管時にヒータ本体を段積みする場合は3段以下とし、必ず転倒防止の処置を行なってください。ヒータが転倒し、**ケガの原因になります。**

電源コードは先端のプラグを持って抜く

コードを持って抜くと、芯線の一部が断線して、**発熱・発火などの原因になります。**




消火の確認

消火をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。火がついたままだと、**火災の原因になります。**

安全のため必ずお守りください

使用上の注意（注意）

注意

	<p>延長コードは許容電流を確認し、正しく使用する 延長コードを使用する場合は、許容電流を確認してください。（22 ページ「延長コードを使用する場合」参照）また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発火・発熱などの原因になります。</p>
	<p>使用时以外は電源プラグを抜く 使用时以外は、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電や漏電火災の原因になります。</p>
	<p>アースは必ず接地する ヒータを使用するときはアースコードを必ず接地してください。（20 ページ「点火のしかた」参照）感電の原因になります。</p>

本体警告ラベル貼付位置

使用上の注意（本体警告ラベル貼付位置）

⚠ 本体警告ラベル貼付位置

次の警告ラベルは、重要警告事項の中から特に重要なものとして厳選されておりヒータ本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みください。また、汚れや傷などで見えにくくなった場合には、お買い求めの販売店に連絡し、新しいものと貼り替えてください。（有償扱いとなります）



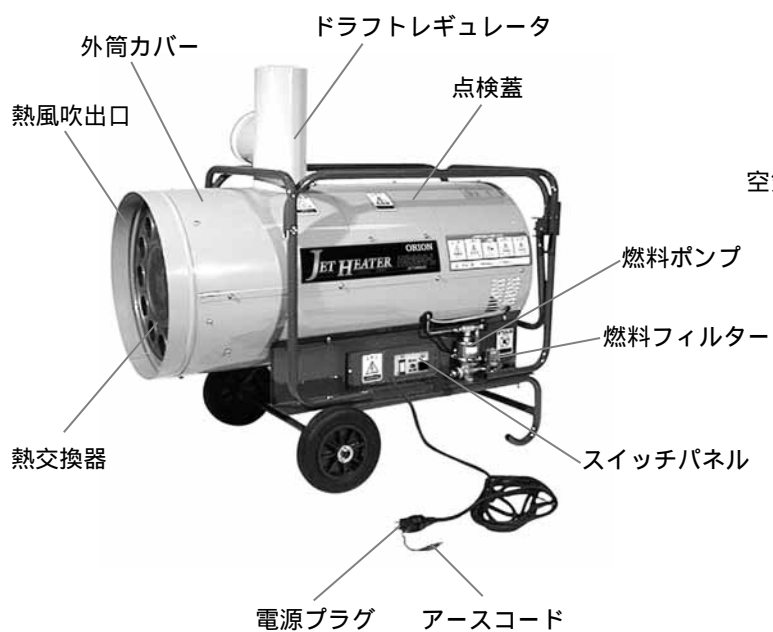
各部のなまえ

外観

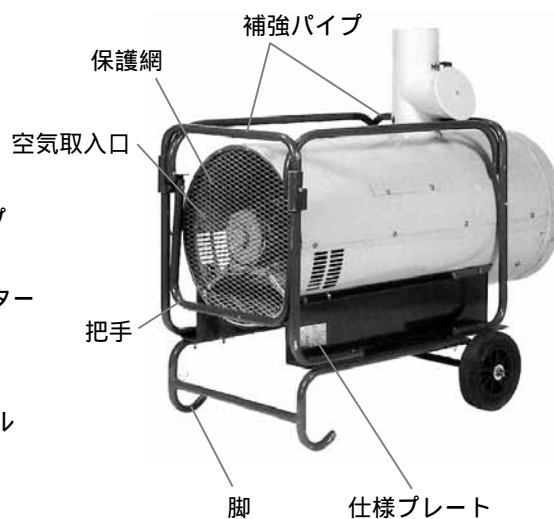
外観

外観

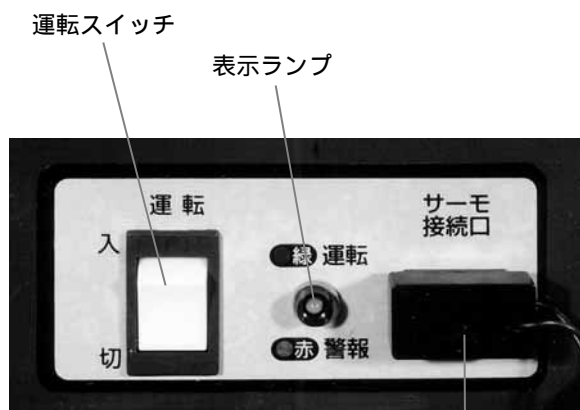
前面



裏面

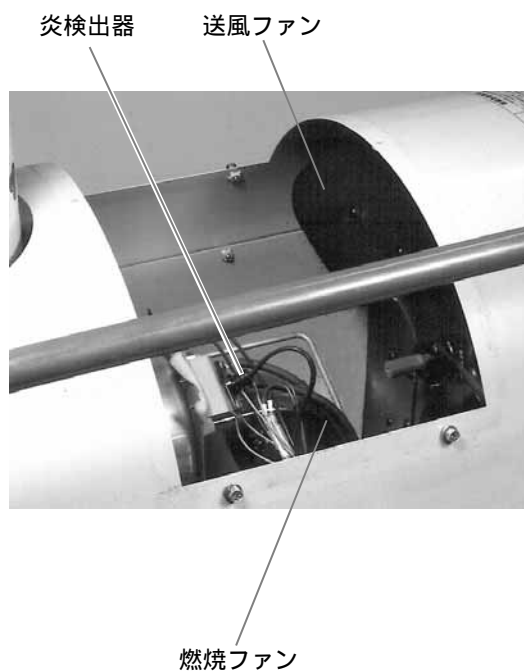


スイッチパネル



サーモ接続口は電源コンセントではありません。
また、電圧をかけないでください。

点検蓋を開けると



使用前の準備と確認

使用する場所 / 燃料

使用する場所

「安全のため必ずお守りください」をよくお読みになり、使用する場所には特に注意してください。

燃料

危険

灯油（JIS1号）を必ず使用してください。ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。爆発、火災の原因になります。

警告

変質灯油や不純灯油は使用しないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

使用燃料について

燃料は灯油（JIS1号）を使用し、変質灯油や不純灯油は使用しないでください。

変質灯油とは

- ・古い灯油（昨シーズンより持ち越した灯油）
- ・日光の当たる場所で長期間保管したもの
- ・温度の高い場所で長期間保管したもの

不純灯油とは

- ・灯油以外の油（ガソリン、シンナー、機械油、重油など）が混入したもの
- ・水やゴミが混入したもの

変質灯油、不純灯油が入っているとき

- ・油タンク内の悪い灯油を抜き取り、良質の灯油と入れ替えてください。



使用前の準備と確認

現品の確認と据え付け / 空気取入口の設けかた

現品の確認と据え付け

1. 梱包箱からヒータを取り出す
 - (1) ヒータ各部の梱包部材や取扱説明書、付属品、チラシをすべて取り除く。
 - (2) 使用地域の周波数とヒータ本体の仕様プレートに記載されている周波数が同じことを確認する。
 - (3) ドラフトレギュレータが付属していることを確認する。
2. 据え付ける
 - (1) 水平なところに置く。
 - (2) ヒータの近くに燃えやすいものを置いていないか確認する。

空気取入口の設けかた



危険

新鮮な燃焼空気が常に補給できるように空気取入口を必ず設けてください。酸素不足により、死亡事故につながり危険です。

燃焼空気取入口は下記の点に注意して設置してください。

- ・ 空気取入口は、できるだけ床面近くに設けること。
- ・ 空気取入口は、流れ込んだ空気が、直接ヒータに吹き込んで燃焼に悪影響を与えないところを選ぶこと。
- ・ 空気取入口は、積雪や吹き溜まりなどで開口部が塞がれないところを選ぶこと。
- ・ 空気取入口は、屋外に面し、直接外気に通じることを開口すること。
- ・ 空気取入口の大きさは、1400cm²以上とすること。(380 mm又は 420 mm以上)

使用前の準備と確認

油配管のしかた

油配管のしかた

注意

油タンクはヒータから 2m 以上離して設置してください。油タンクが暖められ、引火して火災の原因になります。

油配管および継手部分の油漏れを確認してください。火災の原因になります。

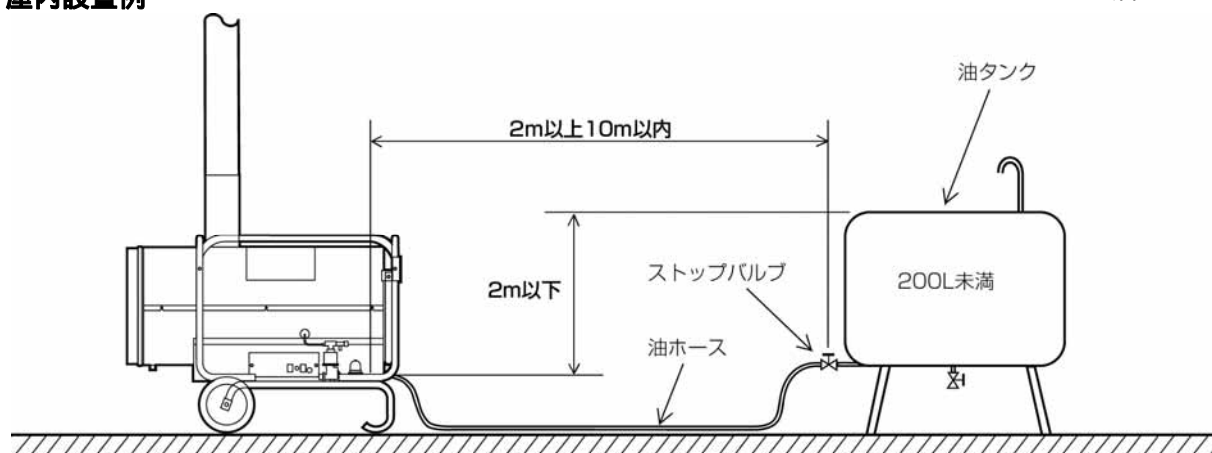
油配管のしかた

1. ヒータ本体の燃料フィルター継手部に油ホースを差し込む。
2. ホースバンドに締め付ける。



ホースバンド 油ホース

屋内設置例



重要事項

油タンクの据付けは、各地区の火災予防条例に従ってください。他に灯油や油類を貯蔵している場合は容量が合算され、届け出が必要になる場合があります。現地消防機関にご相談ください。また、油タンクの容量が 1000L を超える場合は市町村長の許可が必要です。

油タンク、ストップバルブ、油ホース、ホースバンドは別途お買い求めください。

油ホースは内径 6.3 mm の「(財)日本燃焼器具検査協会」合格品を使用してください。

油ホースをヒータ下方、熱風吹出口前方に配管しないでください。

使用前の準備と確認

煙突の取り付けのしかた

煙突の取り付けのしかた



危険

煙突は、排気ガスが必ず屋外に排出されるように設置してください。一酸化炭素などが発生し、死亡事故につながり危険です。



注意

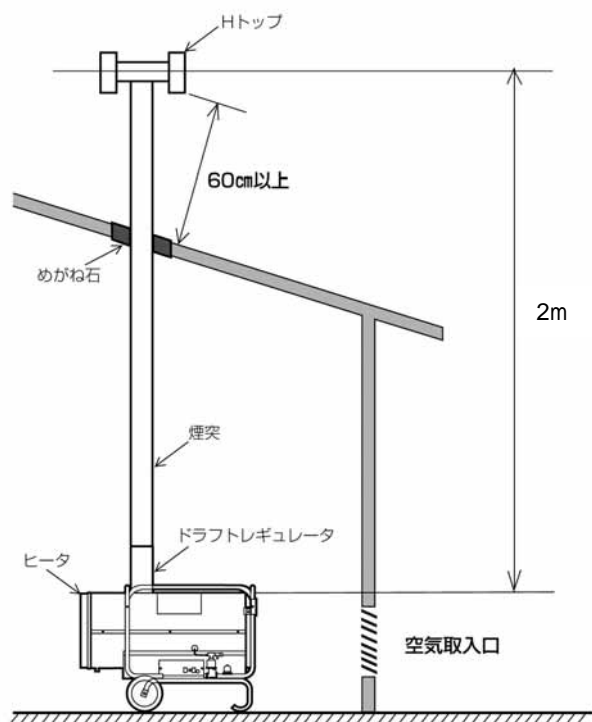
壁及び天井等の煙突貫通部は、不燃材料のめがね石を設けてください。火災の原因になります。煙突の横引き部分と曲りは抵抗になるので、横引き部分はできるだけ短く、曲りは少なくしてください。空気不足により、異常燃焼や火災の原因になります。

煙突の取り付けのしかた

1. ドラフトレギュレータをヒータに取り付ける
2. ドラフトレギュレータに煙突を差し込む
3. 煙突が倒れないように固定する

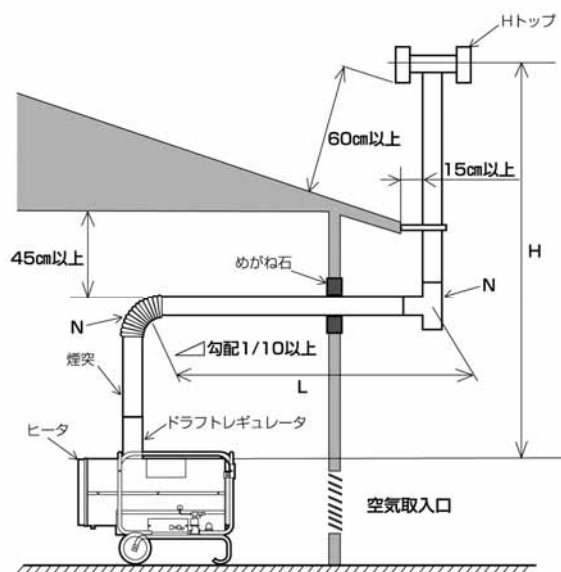


設置例 1



設置例 2

煙突を横引きする場合



横引き部分と垂直部分の長さは次による

$$H=2+0.5L+0.8N$$

H: 垂直部分の長さ (m)

L: 横引き部分の長さ (m)

N: 曲りの個数

使用前の準備と確認

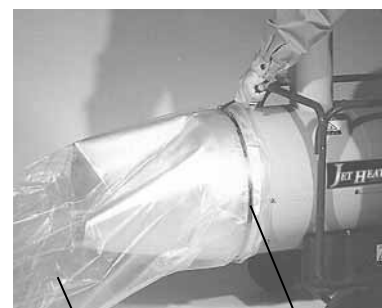
ダクトの取り付けのしかた

ダクトの取り付けのしかた

1. ヒータ本体に耐熱ダクト（オプション）を差し込む
耐熱ダクトは、ポリエチレンダクトが熱損傷するおそれのある場合に使用してください。



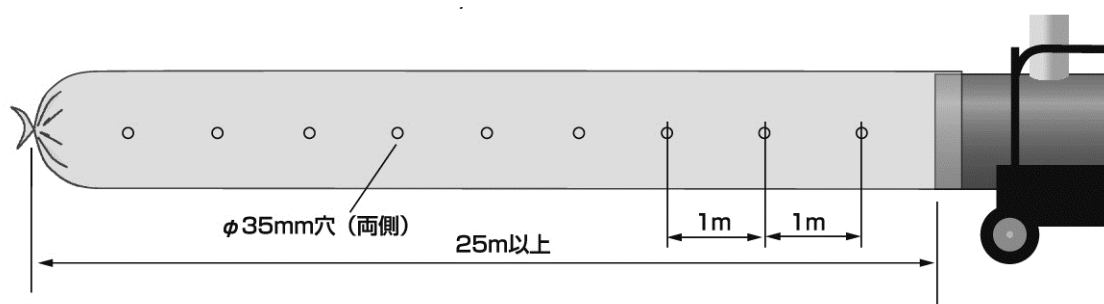
2. 耐熱ダクトの上にポリエチレンダクト（オプション）を差し込む



3. ダクト止め金具（オプション）でダクトを固定する

4. 穴あきダクト（オプション）の先端を全閉にして使用する場合は、ダクトの長さを 25m 以上にしてください。ダクトが短いと抵抗が増し、安全装置が作動し停止します。

穴あきダクト：ピッチ 1m で両側に 35 mm の穴が開いたもの



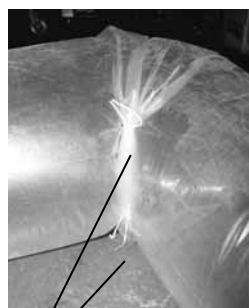
使用前の準備と確認

ダクトの取り付けのしかた

5. 穴無しダクト（オプション）を使用しダクトの先端を絞る場合は、必ず 200 mm以上の開口部を設けてください。開口部面積が不足すると抵抗が増し、安全装置が作動しヒータが停止します。



6. ダクトの曲がりは抵抗になりますので、途中で急激に曲げたり、ねじったりしないでください。安全装置が作動しヒータが停止します。コーナー部は特に折れやすいので、ダクト径を確保できるよう工夫してください。曲げの内側を写真の様に針金や洗濯ばさみ等で余ったポリダクトをまとめると、折れにくくなります。



針金等でまとめる

重要事項

ダクトは折り幅 700 mm以上、厚さ 0.1 mm以上のポリエチレンダクトを使用してください。
ダクトの径を絞りすぎないでください。風量が減少して加温効果が悪くなったり、温風温度が上昇してダクトが溶けるおそれがあります。

使い方

点火のしかた

点火のしかた

⚠ 注意

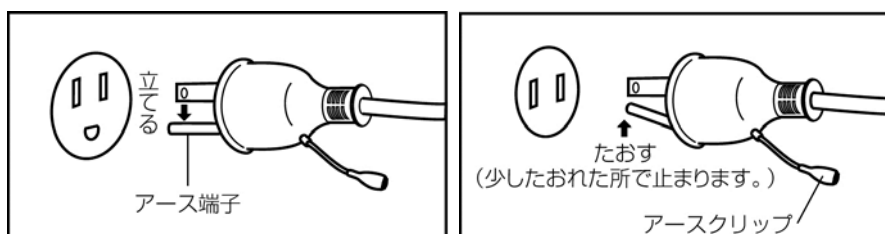
電源は AC100V です。AC200V コンセントには絶対に差し込まないでください。故障や感電、火災の原因になります。

アースコードは必ず接地して使用してください。感電の原因になります。

燃料切れ以外で、点火操作を 3 回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないでください。点火操作を 4 回以上繰り返して点火した時には、煙突より煙が出る場合があります。また、火災の原因になります。お買い求めの販売店にご相談ください。

1. 電源プラグを AC100V コンセントに差し込む。

- ・表示ランプが赤色に点灯した場合は、運転スイッチが「入」になっています。運転スイッチを「切」にした後、点火操作をしてください。
- ・表示ランプが点滅していないことを確認してください。
- ・コンセントがアース付の場合はイラストのようにアース端子を立てて差し込みます。
- ・コンセントが 2P の場合はアース端子をたおして差し込んでください。(アース端子がたおれながら差し込まれます) この場合は、プラグから出ているアースクリップを接地してください。



2. 運転スイッチを「入」にする。

3. 約 10 秒後に点火します。

- ・お買い求め後初めての運転時や燃料切れした給油後の運転時は、運転スイッチ「入」後、燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がし、表示ランプが赤色に点灯します。この場合は空気抜きを行なってください。(21 ページ「空気抜きのしかた」参照)

重要事項

電源プラグをコンセントへ差し込んだ時に表示ランプが点滅した場合、電源電圧が異常に高い事を検知しています。即座に電源プラグをコンセントから抜いてください。

使い方

空気抜きのしかた / 消火のしかた

空気抜きのしかた

次のようなときは、運転スイッチを「入」にしても燃料ポンプから「ガチャガチャ」と音がして、点火しないことがありますので空気抜きを行なってください。

- ・お買い求め後、初めて運転したとき
- ・油タンクが「空」になり、あらたに灯油を給油したとき
- ・配管中に空気が入ったとき

空気抜きのしかた

1. 透明ホースの先に油受けを置いてください。
2. 空気抜き弁を開けてください。
3. 運転スイッチを「入」にしてください。
4. 透明ホースに燃料が流れることを確認してください。
5. 空気抜き弁を閉めると着火します。
6. 空気が抜けきらないうちに表示ランプが赤色で点灯した時は、運転スイッチを入れ直してください。



消火のしかた

注意

電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。また、冷却運転中に電源プラグを抜かないでください。ヒータ内部が過熱し、火災、やけどや故障の原因になります。

消火直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などは高温になっています。燃焼中及び消火後 30 分間は手を触れないでください。

運転スイッチを「切」にする。

- ・約 3 分間冷却運転を行なった後、ヒータは自動停止します。

使い方

移動のしかた / 延長コードを使用する場合 / 運搬のしかた

移動のしかた

⚠ 注意

燃焼中は移動しないでください。やけどや転倒による火災の原因になります。

1. 煙突を取り外してください。
2. 写真のように把手を持ち、脚を浮かせて手前へ移動してください。



延長コードを使用する場合

⚠ 注意

延長コードは許容電流を確認し、正しく使用してください。また、巻いたまま、束ねたまま使用しないでください。発熱・発火などの原因になります。

延長コードを使用する場合は、次の表を目安にしてください。

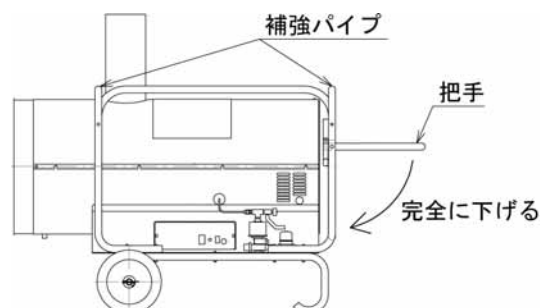
延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

運搬のしかた

⚠ 注意

ヒータを荷台等へ積み降しする時は、把手を完全に下げ、補強パイプと合せて握り持ち上げてください。把手を上げて持ち上げないでください。把手と補強パイプの間に手を挟んで、ケガの原因になります。

図のように把手を下まで完全に下げ、補強パイプをしっかり握って運搬してください。



点検・手入れのしかた

使うたびに



警告

燃焼状態の確認、送風ファンの確認、対震自動消火装置の作動確認を除き、点検、手入れは、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。異常を確認した時は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒータ本体の焼損や火災の原因になります。



注意

消火直後は、熱交換器、ドラフトレギュレータ及び煙突などは高温になっています。燃焼中及び消火後 30 分間は手を触れないでください。ケガの防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業してください。

使うたびに

1. 運転前の確認

- ・ヒータ周囲の可燃物との距離は確保されているか、また、スプレー缶などが無いか必ず確認してください。
- ・ヒータ本体に油漏れや油たまり、油のにじみが無いか確認してください。
- ・外筒の塗装に変色（焼け）がないか確認してください。変色があるとヒータ内部に異常があるおそれがあります。
- ・ヒータ周囲の床に油が垂れたしみが無いか確認してください。

2. 燃焼状態の確認

燃焼中に次の異常が無いか確認してください。

- ・ドラフトレギュレータから黒煙が出ていないか。
- ・煙突から黒煙や白煙が出ていないか。
- ・煙突配管に外れや穴あきがないか。
- ・熱交換器の熱風吹出口側が異常に赤くなっていないか。
- ・異常音、異常振動がしていないか。

3. 送風ファンの確認

- ・燃焼中に送風ファンが回転しているか確認してください。

重要事項

燃焼状態の確認は、やけどなどの事故を防止するため、ヒータから 3m 以上離れて行ってください。

点検・手入れのしかた

1 か月に 1 回以上 / 1 シーズンに 2 ~ 3 回

1 か月に 1 回以上

1. 対震自動消火装置の点検

- ・対震自動消火装置が作動することを確認してください。

対震自動消火装置の作動確認のしかた

- (1) 移動用把手を持ち、ヒータを水平にゆする。
- (2) 対震自動消火装置が働き、消火することを確認する。

2. フィルターエレメントの点検

- ・フィルターケース内のエレメントを確認し、汚れているときは、フィルターエレメントの掃除をしてください。
- ・汚れが著しいときは、新品のフィルターエレメントと交換してください。(エレメントのご注文は、お買い求めの販売店にご相談ください)

フィルターエレメントの掃除のしかた

- (1) フィルターケースを外し、フィルターエレメントを取り出して、灯油で洗う。
- (2) 元通りに組み立てる。



フィルターケース

1 シーズンに 2 ~ 3 回

1. 燃焼状態の点検 (黒煙の発生、異常過熱)

- ・粉塵等が多い使用環境によっては燃焼ファンに汚れが付着し、燃焼空気量不足によりドラフトレギュレータや煙突から黒煙が発生します。また、熱風吹出口が異常過熱するおそれがあります。燃焼状態の確認 (23 ページ参照) を再度行ない、異常の場合はお買い求めの販売店へご相談ください。

2. 炎検出器の掃除

- ・25 ページ「炎検出器の掃除のしかた」を参照し、炎検出器の掃除を行なってください。

3. 電源プラグの点検

- ・電源プラグにほこりが付着していないことを確認してください。

電源プラグの確認のしかた

- (1) 電源プラグをコンセントから抜く。
- (2) 電源プラグの周りにほこりが付着していないことを確認する。
- (3) ほこりが付着しているときは、ゴミを取り除いてください。

点検・手入れのしかた

炎検出器の掃除のしかた

炎検出器の掃除のしかた



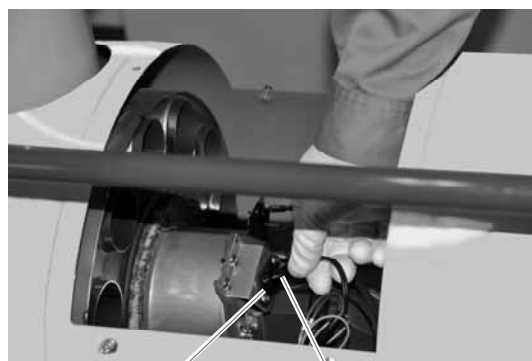
ケガ防止のため、軍手などの保護手袋を着用して作業をしてください。

1. 点検蓋を固定している6本のネジをドライバにて取り外し、点検蓋を外す。



点検蓋

2. 炎検出器を採光管より抜く。



採光管

炎検出器

3. 炎検出器の受光面のすす、ほこり等を取り除く。
柔らかい布又は綿棒等で受光面についているすす、ほこり等を取る。
炎検出器が入っている採光管先端部の穴が、ほこりで詰まっているときは、掃除してください。



炎検出器

受光面

4. 炎検出器を元通りに差し込む。この時、炎検出器の凸部と採光管の凹部を合わせること。
5. 点検蓋を取り付ける。

定期点検

長期間ご使用になりますと機器の点検が必要です。点検を受けないと、予想しない事故が発生するおそれがあります。未然に事故を防止するため、定期点検を依頼してください。(有償となります)

実施時期

2シーズンに1回程度、シーズン初めやシーズン終了時に定期点検を依頼してください。特に、使用時間が長い場合やほこりの多いところ、湿度の高いところなどでご使用の場合は、1シーズン毎の点検が必要となりますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

ご依頼先

お買い求めの販売店

定期点検の内容

1. 設置状態の点検・確認
2. 安全装置及び運転状態の点検・確認
3. 環境や使用時間により劣化しやすい部品の点検・確認
4. 製品の清掃・整備

定期点検費用

定期点検の費用については、お買い求めの販売店にご相談ください。定期点検の結果、部品交換および修理等が必要な場合は、処置内容および費用についてお客さまにご相談申し上げます。

異常のとき

故障・異常早見表



警告

次の表に従って確認や処置を実施しても改善しない場合や、原因が不明な場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店にご相談ください。異常のまま使用を継続すると、ヒータ本体の焼損や火災の原因になります。

確認や処置の際には、必ず電源プラグをコンセントから抜いて作業してください。感電や送風ファンによるケガの原因になります。



注意

燃料切れ以外で点火操作を3回繰り返しても点火しない場合は、それ以上操作をしないで、お買い求めの販売店にご相談ください。点火操作を4回以上繰り返して点火した時には、煙突より煙が出ることがあります。また、火災の原因になります。

故障・異常早見表

	現象	原因	処置のしかた
安全装置が作動した	表示ランプが「赤」の点灯	・ 停電があった。 ・ 運転スイッチ「入」で電源プラグをコンセントに差し込んだ。	・ スイッチを「切」にしリセットする。
	運転中に表示ランプが「赤」の点滅（低電圧警報）	・ 電源電圧が異常に低い。	・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。
	表示ランプが「赤」の点滅（高電圧警報）	・ 電源電圧が異常に高い。	・ 電源プラグをコンセントから即座に抜く。 ・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。（電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します）
	表示ランプが「赤」の点灯（過熱防止警報）	・ 送風ファンの故障。 ・ 熱風吹出口に風が吹き込んでいる。 ・ 空気取入口にシート等が貼りついた。	・ 使用をやめ、販売店に連絡する。 ・ 左記の原因を取り除き、本機が冷めるまで、運転をやめる。
	表示ランプが「赤」の点灯（点火安全警報）	・ 燃料切れで消火した。 ・ 炎検出器の受光面が汚れている。 ・ 燃料の不良（変質灯油、水の混入等） ・ フィルターエレメントの詰まり。	・ 油量計を確認し、給油する。 ・ 炎検出器を掃除する。（P25 参照） ・ 良質の灯油と交換する。 ・ エレメントを掃除する。（P24 参照）
	表示ランプが「赤」の点灯（点火安全警報）	・ 熱風吹出口に太陽光が差し込んでいる。	・ ヒータの向きを変える。
	表示ランプが「赤」の点灯（対震警報）	・ ヒータが傾いている。 ・ 強い地震や振動、衝撃が加わった。	・ 振動のない、水平な場所で使用する。
	警報は出ないが燃焼状態が異常（油ダレや煙突から煙が出る等）	・ 燃料の不良（変質灯油、水の混入等） ・ フィルターエレメントの詰まり。 ・ 燃焼ファンが汚れている。	・ 表示ランプが「赤」の点滅時の処置を参考に確認する。原因が不明の場合は、使用をやめ、販売店に連絡する。
	運転スイッチを「入」にしても運転しない。（運転ランプも点灯しない）	・ 過負荷保護装置（ヒューズ）が作動。	・ 販売店に連絡する。
	電源プラグをコンセントに差し込むと、運転スイッチの「入」「切」にかかわらず表示ランプが「赤」の点滅	・ 電源電圧が異常に高い。	・ 電源プラグをコンセントから即座に抜く。 ・ 電源電圧を確認し、100±10V 以内で使用する。（電源プラグを差し込んだままにしておくと、故障します）

異常のとき

安全装置一覧表

安全装置一覧表

装置のなまえ	はたらき	表示ランプ
対震自動消火装置	強い地震や衝撃を受けたときに自動消火します。	「赤」の点灯
点火安全装置	点火ミスや燃料切れ、異常燃焼のときに自動消火します。	「赤」の点灯
停電安全装置	停電後に復電しても、運転開始することを防止します。	「赤」の点灯
過熱防止装置	ヒータ内部が異常過熱したときに自動消火します。	「赤」の点灯
過負荷保護装置（ヒューズ）	過電流が流れた時に電気回路を遮断し、運転停止します。	消灯
高電圧停止装置	電源電圧が異常に高いときに運転停止し、警報を出します。	「赤」の点滅
低電圧警報装置	電源電圧が異常に低いときに警報を出します。	「赤」の点滅

安全装置作動後の再点火操作は、異常を取り除いた後に行なってください。

保管のしかた

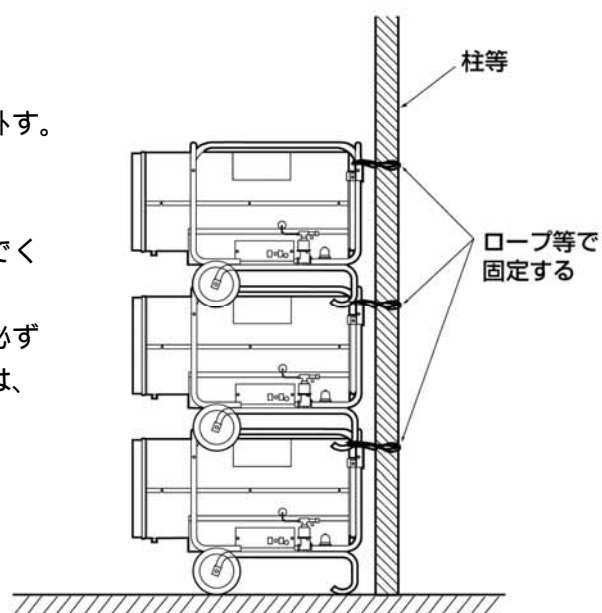
⚠ 危険

段積みした状態では絶対に使用しないでください。爆発、火災、やけど等の原因になり危険です。

⚠ 注意

保管時にヒータ本体を段積みする場合は 3 段以下とし、必ず転倒防止の処置を行なってください。ヒータが転倒し、ケガの原因になります。

1. 電源プラグをコンセントから抜く。
2. 油ホースをヒータ本体の燃料フィルター継手部から取り外す。
3. ヒータ本体のほこりや汚れを取り除く。
4. シート等をかけて湿気の少ない屋内で保管する。
・雨水がかかったり、湿気の多いところには保管しないでください。
5. 保管時にヒータ本体を段積みする場合は 3 段以下とし、必ず転倒防止の処置を行なってください。ヒータ本体の保管は、右図の方法で行なってください。



ヒータの保管例

消耗部品

定期交換部品 / 点検交換部品

定期交換部品（指定された時期に定期的に交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数 / 台	交換時期
1	80000022560	フィルターエレメント	1	1シーズン毎
2	36100110930	ノズル	1	3シーズン毎

交換時期は、一般的な使用条件における予防保全（使用中の故障を未然に防止するために計画的に行う部品交換等）としての目安です。

交換時期は保証期間ではありません。また、製品の使用環境、運転条件等により、交換時期前に交換が必要となる場合があります。

ノズルの交換は、専門技術を要しますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

点検交換部品（点検時の消耗、劣化状態に応じて交換する部品）

	部品番号	部品名称	員数 / 台	点検時期	交換判定基準
1	03039385010	点火棒	1	1シーズン毎	消耗・変形の有無
2	03A30845010	燃焼ファンモータ （ブロワモータ）	1	1シーズン毎	異音の有無 回転の状態
3	0A002496000	送風ファンモータ （モータ）	1	1シーズン毎	異音の有無 回転の状態
4	03040089010	保護網	1	1シーズン毎	破損の有無
5	03A31047010	燃料ポンプ （電磁ポンプ）	1	1シーズン毎	異音の有無 油量の減少

上記部品の交換は、専門技術を要しますのでお買い求めの販売店にご相談ください。

廃棄について

製品を廃棄するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に準拠し、必ず専門の産業廃棄物処理業者に委託して処理をしてください。

オプション部品

オプション部品については、お買い求めの販売店にご相談ください。

オプション部品リスト

	部品番号	部品名称	員数 / 台	仕様
1	03039388020	サーモスタット（高温用）	1	20～110
2	03107226010	サーモスタット（低温用）	1	10～30
3	03107226020	サーモスタット（低温用）	1	0～20
4	03040081010	サーモスタット（防湿用）	1	5～40
5	03037841010	タイマ	1	
6	04038800010	排気筒セット	1	HS290-L 用
7	38343500180	耐油ホース	1	m 単位販売 6.3 × 14
8	35610400020	ダクト止め金具	1	HS290-L 用
9	03043679010	耐熱ダクト	1	430 × 450 mm
10	38060000010	ポリダクト（穴無し）	1	折幅 0.7 × 50m
11	38060000020	ポリダクト（穴無し）	1	折幅 0.7 × 100m
12	38060000040	ポリダクト（穴ピッチ 1m）	1	折幅 0.7 × 50m
13	38060000050	ポリダクト（穴ピッチ 1m）	1	折幅 0.7 × 100m

必ず純正部品を使用してください。使用の際は、部品に付属の取扱説明書を読んで使用してください。

サーモスタット・タイマの接続のしかた

サーモスタットまたはタイマを接続するときは、部品に付属の取扱説明書をお読みのうえ、次のように接続してください。運転のしかたは、部品に付属の取扱説明書を参照してください。

1. スイッチパネルのサーモ接続口に取り付けられている短絡プラグを外す。
2. サーモスタットまたはタイマのプラグを、サーモ接続口に差し込む。

重要事項

サーモ接続口に、その他のプラグを差し込んだり、電圧をかけないでください。故障します。
サーモスタットを取り付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たる所に置かないでください。頻繁に ON（燃焼） / OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

アフターサービス

保証について

- ・巻末が保証書となっています。大切に保管してください。
- ・保証期間中でも消耗部品等は有償となる場合があります。保証書をよくお読みください。
- ・保証期間経過後は有償修理となります。修理箇所及び修理内容や経過年数によっては新規購入をお奨めする場合がありますので、お買い求めの販売店にご相談ください。

点検・修理を依頼される前に

- ・「異常のとき」(27、28 ページ参照)に従い確認、処置をしてください。
- ・その上で改善しない場合、またはご不明な点がある場合は、ご自身で修理なさらずに、お買い求めの販売店にご相談ください。

補修用性能部品について

- ・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- ・この製品の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後7年です。

アフターサービスの依頼

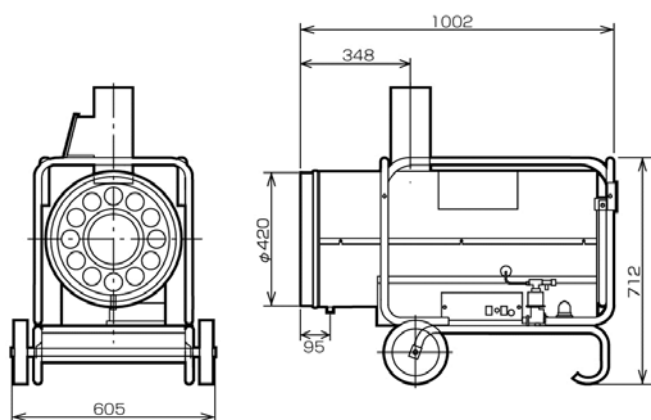
- ・点検、修理をお申しつけのときは、次の事項をお買い求めの販売店にお知らせください。
製品名 形式名 製造番号 現象(できるだけ詳しく) 住所、電話番号
- ・部品のお申し込みをされるときは、次の事項をお知らせください。
製品名 形式名 部品の名称、部品番号、個数

仕様

仕様表

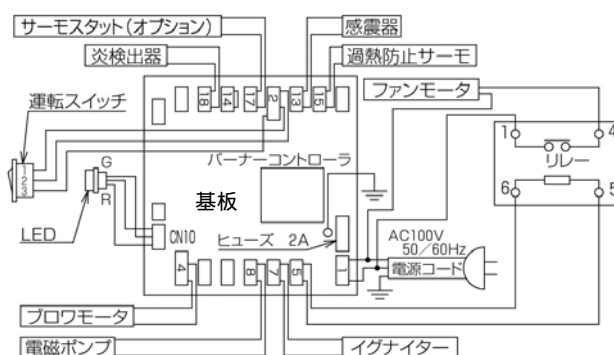
種類	熱風式間接形
形式	HS290-L
熱出力	33.3kW
燃料消費量	4.23L/h
外形寸法	高さ 712 mm × 幅 605 mm × 奥行 1002 mm
製品質量	55kg
定格電圧及び周波数	100V 50/60Hz
定格消費電力 (50/60Hz)	点火時 415/490W 燃焼時 400/470W
運転音 (50/60Hz)	72/74dB
安全装置	対震自動消火装置
	点火安全装置
	停電安全装置
	過熱防止装置
	過負荷保護装置
	高電圧停止装置
ダクト口径	420 mm (折り幅 700 mm)
ヒューズ	ガラス管ヒューズ (5.2×20、125V・2A)
付属品	ドラフトレギュレータ
電源コード長さ	4.5m

外形寸法図



単位：mm

配線図



返却時の梱包方法

1



※以下の作業は必ず運転を停止し、本体が冷めてから行ってください。

- 本体から燃料ホースを外し、左矢印の場所に燃料キャップを取り付けます。
- ※燃料ホースが外しにくい場合はマイナスドライバーなどを燃料ホースの隙間に入れて外します。

2



- 左矢印のダイヤルを回して、本体に残っている燃料を全て出します。

※本体に燃料を残さないようにお願いします。

3



- 電源コードを左画像の様に補強パイプに巻き付けます。

4



- 煙突を上を持ち上げて取り外します。

※煙突は熱くなりやすいので、冷めた事を確認してから取り外してください。

5		<ul style="list-style-type: none">• 煙突を外し、左画像の様な状態にしてから箱を被せます。
6		<ul style="list-style-type: none">• 左画像の様に箱を被せます。
7		<ul style="list-style-type: none">• 取り外した煙突は煙突専用箱に入れ、取扱説明書も一緒に入れます。
8		<ul style="list-style-type: none">• マジックテープを使用して蓋を閉じます。

9 ジェットヒーター本体の箱、煙突専用箱に返却伝票を貼り付ければ完成です。

お届け時の伝票の下にある伝票が
返却用の伝票です。

